

N E C

COBOL Enterprise Edition Developer V5.0

COBOL Enterprise Edition Developer V5.0

(1 年間保守つき)

COBOL Enterprise Edition Developer V5.0

(1 年間時間延長保守つき)

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは、「COBOL Enterprise Edition Developer」(以下、COBOL 製品と表記します)をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、COBOL 製品の内容確認、製品のインストール方法、その他の機能の使用方法について記述します。

COBOL 製品をお使いになる前に、必ずお読みください。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat Reader は、Adobe Inc. (アドビ社) の米国および他の国における商標または登録商標です。

Oracle、Pro*COBOL、MySQL は米国 Oracle Corporation の登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は米国 Red Hat , Inc . の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Apache、Xerces-C++は、The Apache Software Foundation の商標または登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中には、™ 、® マークは明記しておりません。

目次

1 章 必要な環境の確認	1
1.1. OS、ハードウェアの確認	1
1.2. 必要なソフトウェアの確認	2
2 章 インストール媒体について	4
3 章 マニュアルについて	5
4 章 注意事項 / 制限事項	6
4.1. 注意事項	6
4.1.1. COBOL 開発環境	6
4.1.2. ランタイム	6
4.1.3. COBOL SQL アクセス	6
4.2. 制限事項	9
4.2.1. コンパイラ	9
4.2.2. ランタイム	12
4.2.3. COBOL SQL アクセス	16

1章 必要な環境の確認

最初に、COBOL 製品が稼動するマシンのハードウェア、OS 等の環境を確認してください。

1.1. OS、ハードウェアの確認

(1) Linux

次のいずれかの OS が稼動するハードウェアが必要です。
環境が合っているか確認してください。

- Red Hat® Enterprise Linux® 7
- Red Hat® Enterprise Linux® 8.4

次に示すハードディスク（HDD）、メモリが必要です。
環境が条件に合っているか確認してください。

パッケージ / 機能	HDD	メモリ (*1)
コンパイラ	10MB 以上	16MB 以上
サーバ開発環境	5MB 以上、更に一接続あたり 1MB 以上を追加	10MB 以上、更に一接続あたり 10MB 以上を追加
ランタイム	3MB 以上	16MB 以上
COBOL SQL アクセス	1MB 以上	1MB 以上

*1：OS が使用するメモリを除きます。

(2) Windows

次の OS が稼動するハードウェアが必要です。
環境が合っているか確認してください。

- Microsoft Windows 10 (64 ビット版) (日本語版)

次に示すハードディスク（HDD）、メモリが必要です。環境が条件に合っているか確認してください。

HDD	メモリ(*1)
15MB 以上	20MB 以上

*1：OS が使用するメモリを除きます。

1.2. 必要なソフトウェアの確認

COBOL 製品は、ご利用いただく機能により、次のソフトウェアが必要です。

機能	ソフトウェア	備考
COBOL/S、COBOL/S マクロ	COBOL/S for Linux	ACOS 互換機能である COBOL/S、GMP、COBOL 拡張部品と連携する場合、それぞれが必要
GMP マクロ	GMP for Linux	
COBOL 拡張部品	COBOL 拡張部品 for Linux	
データベース機能	Oracle Pro*COBOL COBOL SQL アクセス Server Runtime	SQL 文でデータベース機能を使用する場合、いずれかを選択。 Red Hat Enterprise Linux 8.4 では Oracle Pro*COBOL や COBOL SQL アクセスから Oracle DB へ接続することはできません
整列併合機能	SORTKIT/Enterprise for Linux	COBOL の SORT/MERGE 文で整列併合機能を使用する場合
索引機能	ISAM	索引機能を使用する場合
refam ファイル	refam/E refam VX	refam ファイル機能を使用する場合、いずれかを選択
オンライントランザクション	TPBASE	オンライントランザクションシステムを使用する場合
COBOL 用語機能	COBOL 用語機能	用語機能を使用する場合
外部リポジトリ機能	Apache Xerces-C++	外部リポジトリ機能を使用する場合 (以下のサイトから 64 ビット用のバイナリを入手してインストールしてください。)

		http://xerces.apache.org/xerces-c/download.cgi)
データレコード情報出力機能 実行トレース機能	COBOL Assistant Option	データレコード情報出力機能や実行トレース機能(カバレッジ情報、部分情報)などの支援機能を使用する場合
Java から COBOL モジュールを呼び出す機能 (COBOL REST API)	COBOL Enterprise Edition Developer/Compiler API ライセンス	Java から COBOL モジュールを呼び出す部品を作成する場合

COBOL SQL アクセス機能(SQL 文で ODBC 対応のデータベースへアクセスする機能)をご利用いただく場合、次のソフトウェアが必要です。

- データベースサーバには接続対象のデータベース製品
 - COBOL SQL アクセス機能を利用した COBOL アプリケーションが稼働するマシンには、ドライバマネージャおよびデータベース製品に対応する 64bit の ODBC ドライバ
- 動作確認済みのデータベース製品および ODBC ドライバ、ドライバマネージャの組み合わせは以下のとおりです。

データベース製品	ODBC ドライバ	ドライバマネージャ
PostgreSQL 13.3	psqlodbc-13.01	unixODBC 2.3.4

2章 インストール媒体について

COBOL Media により、COBOL 製品をインストールすることができます。

本製品をご使用になるには Linux マシンに「コンパイラ」「サーバ開発環境」、Windows マシンに「クライアント開発環境」をインストールしてください。

インストール/アンインストールの手順、インストールの注意事項等、詳細については、COBOL Media または COBOL Media を含む製品に添付の「COBOL Media セットアップカード」の「3.2 コンパイラのインストール手順」/「3.4 サーバ開発環境のインストール手順」/「5.1 クライアント開発環境のインストール手順」/「4.1 コンパイラのアンインストール手順」/「4.3 サーバ開発環境のアンインストール手順」/「6.1. クライアント開発環境アンインストール手順」の章を参照してください。

3章 マニュアルについて

マニュアルは、次の媒体に収録しています。

マニュアル名称	媒体	媒体名称
COBOL 言語説明書	CD-ROM	COBOL 言語説明書
COBOL プログラミングの手引	CD-ROM	COBOL Media
COBOL ユーザーズガイド		
COBOL 開発環境 利用の手引		
COBOL SQL アクセス 言語説明書		
COBOL SQL アクセス プログラミングの手引		
COBOL SQL アクセス ユーザーズガイド		

各マニュアルは、PDF (Portable Document Format) 形式で収録されていますので、Adobe Acrobat Reader (アドビ社の PDF 書類の表示、閲覧、プリントを行うソフトウェア) などの PDF ファイルを表示するソフトウェアを用意してください。

「COBOL 言語説明書」(ファイル名 : COBOL 言語説明書.pdf) は、参照するマシンの CD-ROM ドライブに COBOL 言語説明書の CD-ROM をセットして、PDF ファイルを直接参照してください。ハードディスクなどの記憶装置、固定メモリにインストールすることはできません。

「COBOL プログラミングの手引」「COBOL ユーザーズガイド」「COBOL 開発環境 利用の手引」「COBOL SQL アクセス 言語説明書」「COBOL SQL アクセス プログラミングの手引」「COBOL SQL アクセス ユーザーズガイド」は、ハードディスクなどの記憶装置にコピーすることができます。

「クライアント開発環境」をインストールすることにより、スタートメニューから参照することもできます。

また、CD-R に収録されている PDF ファイルを直接参照することもできます。

4章 注意事項 / 制限事項

4.1. 注意事項

本製品の注意事項は以下のとおりです。

各マニュアル記載の注意事項、README もご確認ください。

4.1.1. COBOL 開発環境

- (1) COBOL 開発環境の注意事項はマニュアルに記載しています。「COBOL 開発環境 利用の手引」の注意事項を参照ください。
- (2) 各製品のインストールやアンインストール時には、COBOL 開発環境を終了してください。

4.1.2. ランタイム

- (1) 環境変数 LANG に ja_JP.UTF-8 を指定しかつ、環境変数 COB_CODECHG に ON を指定した際、ACCEPT 文/DISPLAY 文の自動コード変換は Red Hat Enterprise Linux 7 では保証しません。Red Hat Enterprise Linux 7 では、SJIS 環境を使用してください。
- (2) ファイル共有機能を使用可能とする-Qp オプションおよび-Qq オプション指定時、NFS 上のファイルはロックできません。

4.1.3. COBOL SQL アクセス

- (1) 他の SQL を扱う製品(例えば Pro*COBOL)との混在利用はできません。
- (2) COPY 文について
COPY 文を記述した場合、COBOL SQL アクセスプリコンパイラでは展開処理は行われず、そのままのイメージで出力されます。COBOL コンパイラによる翻訳時に展開処理が行われます。以下の点に注意してください。
 - a) 登録集原文中に埋込み SQL 文を記述できません。

COPY 文の代わりに INCLUDE ファイル名文を使用してください。
ただし、COPY 文の REPLACING 指定のように展開時に文字列や原文語を置き換えることはできません。

REPLACE 文を記述した場合、COBOL SQL アクセスプリコンパイラでは置換処理は行われず、そのままのイメージで出力されます。COBOL コンパイラによる翻訳時に置換処理が行われます。以下の点に注意してください。

< 例 >

この注意を無視し、現在のバージョンで正常に動作するプログラムが作成できたとしても、将来のバージョンにおいて SQL 展開済み COBOL ソースが変更される可能性があります。

b) ホスト変数の定義中は、REPLACE 文を記述できません。

< 例 >

000100 DATA DIVISION.

000110 WORKING-STORAGE SECTION.

000120 EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.

000130 REPLACE ==LS== BY ==LEADING SEPARATE==.

000140 *> REPLACE 文は、ホスト変数の定義中に記述

000150 *> できない

F D004 REPLACE が誤っている

000160 01 HOSTVAR-AAA-1 PIC S9(5) LS.

000170 EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.

(4) 埋め込み例外処理に関する注意事項

条件文中に埋め込み例外処理のみを記述することはできません。また埋め込み例外処理は、COBOL 文の実行順序ではなく、記述順序で有効となります。そのため、条件ごとに埋め込み例外処理を変更するような場合には、対象となる SQL 文を含んだ形で記述してください。

< 誤 >

000010 IF A = 10

000020 THEN EXEC SQL NOT FOUND GO TO :10 END-EXEC

000030 ELSE EXEC SQL NOT FOUND GO TO :20 END-EXEC.

000040 EXEC SQL FETCH FROM CUR1 INTO :D END-EXEC.

< 正 >

000010 IF A = 10

000020 THEN EXEC SQL NOT FOUND GO TO :10 END-EXEC

000030 EXEC SQL FETCH FROM CUR1 INTO :D END-EXEC

000040 ELSE EXEC SQL NOT FOUND GO TO :20 END-EXEC

000050 EXEC SQL FETCH FROM CUR1 INTO :D END-EXEC.

(5) データベースに MySQL を使用する場合、集合関数を記述した SQL 文で以下の構文エラーが発生することがあります。

You have an error in your SQL syntax

< 集合関数の記述例 >

```
SELECT COUNT(*) FROM JINJI
```

この場合、以下のいずれかの方法で回避してください。

< 対処方法 >

a) My.ini で sql-mode に IGNORE_SPACE を設定

b) 動的 SQL 文に変更

< 例 >

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
77   XCD1          PIC X(1000).  
77   HSYOZOKU     COMP-2.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.  
:  
MOVE "SELECT COUNT(*) FROM JINJI" TO XCD1. ...  
EXEC SQL  
  PREPARE SQLCU1 FROM :XCD1  
END-EXEC.  
EXEC SQL  
  EXECUTE SQLCU1 INTO :HSYOZOKU  
END-EXEC.
```

COUNT と (の間に空白を入れないように注意してください。

(6) 日本語識別子は使用できません。表名、列名など、識別子には日本語文字以外を使用してください。

4.2. 制限事項

本製品の制限事項は以下のとおりです。

各マニュアル記載の制限事項もご確認ください。

4.2.1. コンパイラ

「4.2.2. ランタイム」もご確認ください。

- (1) COPY 文の直後にエラーが出力される場合、エラー出力の行番号が、登録集原文の 1 行目となります。

プログラム例)

```
000010 IDENTIFICATION DIVISION.  
000020 PROGRAM-ID. AAA.  
000030 COPY TP85_C.  
000040+END PROGRAM AAAAAA. *> エラー発生
```

登録集原文 (TP85_C.cob)

```
000010 IDENTIFICATION DIVISION.  
000020 PROGRAM-ID. BBB.  
000030 END PROGRAM BBB.
```

登録集原文の行番号

4 TP85_C	1 F C0012	標識領域に許されない文字があります .
7	4 F C0047	ソース単位終了標がありません .

登録集原文の 1 行目のエラーが出力された場合、登録集原文に誤りがなければ、COPY 文の直後の構文が正しいことを確認してください。

- (2) プログラム原型名を指定したプログラム呼び出し (CALL 文の書き方 3)、関数一意名による利用者定義関数の呼び出し、INVOKE 文によるメソッドの呼び出しにおいて、USING 句に算術の結果が 18 桁を超えるような算術式を利用することができません。そのような算術式を利用した場合、以下の翻訳エラーとなります。

L0003 演算の中間結果の転記桁数が 18 桁を超えています

プログラム例)

```
000010 IDENTIFICATION DIVISION.  
000020 FUNCTION-ID. X2.  
000030 DATA DIVISION.  
000040 LINKAGE SECTION.  
000050 01 NUM_IN PIC 9(10).  
000060 01 NUM_OUT PIC 9(10).  
000070 PROCEDURE DIVISION USING BY VALUE NUM_IN RETURNING NUM_OUT.  
000080 BEGIN.  
000090 COMPUTE NUM_OUT = NUM_IN * 2.  
000100 END FUNCTION X2.
```

```

000110 IDENTIFICATION DIVISION.
000120 PROGRAM- ID. SAMPLE.
000130 ENVIRONMENT DIVISION.
000140 CONFIGURATION SECTION.
000150 REPOSITORY.
000160     FUNCTION X2.
000170 DATA DIVISION .
000180 WORKING-STORAGE SECTION.
000190 77 DATA1 PIC 9(10) VALUE 1000.
000200 77 DATA2 PIC 9(10) VALUE 1000.
000210 77 RESULT PIC 9(10).
000220 PROCEDURE DIVISION.
000230 BEGIN.
000240     MOVE FUNCTION X2(DATA1 + DATA2) TO RESULT.
000250     DISPLAY RESULT.
000260     MOVE FUNCTION X2(DATA1 * DATA2) TO RESULT.
000270     DISPLAY RESULT.
000280     STOP RUN.
000290 END PROGRAM SAMPLE.

```

本プログラム例の場合、260 行目の算術式、DATA1*DATA2 の結果が 18 桁を超えるため、翻訳エラーとなります。

- (3) 自由形式で、1 行に記述できる最大長(255 バイト)を超えた文字は、コンパイル時に切り捨てられます。

1 行の長さを 255 バイト以内にしてください。

- (4) ソースファイル名に特定の日本語 (16 進表記で 2byte 目が 5c) を含む場合、コンパイル時に内部コンパイラエラーが発生します。

(例) ソースファイル名が、“ソースファイル 1.cob” の場合 (「ソ」 ... 0x835c)
/tmp/coba1455/ソースファイル 1.cpp:1: error: unknown escape sequence: '¥201'
LCB010 内部コンパイラエラーが発生しました。PROCESS = cob, CODE = 67F000 SOURCE
FILE = ソースファイル 1.cob

そのため、ソースファイル名を英数字とするか 16 進表記で 2byte 目が 5c にならない日本語を使用してください。

- (5) 相対編成および索引編成の大容量記憶ファイルを利用する場合、マルチスレッドで動作するアプリケーションを生成できません。

原始プログラムの翻訳において、マルチスレッドオブジェクト生成オプション（-MT オプション）を指定した場合、相対編成または索引編成のファイルを含むと、以下の翻訳エラーとなります。

D1322 -MT オプション指定時,相対編成または索引編成のファイルは使用できません

4.2.2. ランタイム

- (1) 算術文（ADD，COMPUTE，DIVIDE，MULTIPLY，SUBTRACT）の受け取り側作用対象が複数あり、けたあふれ条件が発生した場合、受け取り側作用対象に記述されたオブジェクトプロパティの結果の内容は不定となります。

けたあふれが発生していない場合は、値は転記されません。しかし、ON SIZE ERROR 指定がなく、けたあふれが発生した場合は、正しい値が転記されます。

プログラム例)

```
000010 IDENTIFICATION  DIVISION.
000020 CLASS-ID.        CLS001.
000030 IDENTIFICATION  DIVISION.
000040 FACTORY.
000050 DATA              DIVISION.
000060 WORKING-STORAGE  SECTION.
000070 01  FAC_PRO001  PROPERTY PIC 9(2) VALUE 23.
000080 END FACTORY.
000090 END CLASS CLS001.
000100*-----
000110 IDENTIFICATION  DIVISION.
000120 PROGRAM-ID.      MAIN001.
000130 ENVIRONMENT      DIVISION.
000140 CONFIGURATION    SECTION.
000150 REPOSITORY.
000160     CLASS          CLS001
000170     PROPERTY       FAC_PRO001
000180     .
```

```

000190 DATA          DIVISION.
000200 WORKING-STORAGE SECTION.
000210 01 DATA001     PIC 9(2) VALUE 99.
000220 PROCEDURE      DIVISION.
000230 L001.
000240      ADD 1      TO DATA001 FAC_PRO001 OF CLS001
000250      ON SIZE ERROR
000260      DISPLAY "OVERFLOW! "
000270      NOT ON SIZE ERROR
000280      DISPLAY "NOT OVERFLOW! "
000290      END-ADD.
000300      DISPLAY FAC_PRO001 OF CLS001.
000310 END PROGRAM    MAIN001.

```

ADD 文の DATA001 で SIZE ERROR が発生すると、FAC_PRO001 に対する加算が実行されず、初期値(23)のままとなります。受け取り側作用対象を 1 つにすることで、算術文の結果が正しくなります。

- (2) COMP-5 データ項目へ PICTURE 句の桁数を超えて値を格納した場合、そのデータ項目に対する DIVIDE 文で剰余を正しく得ることができません。

プログラム例)

```

IDENTIFICATION DIVISION.
PROGRAM-ID. SAMPLE.

```

```

DATA DIVISION.
WORKING-STORAGE SECTION.
01 DIVIDEND PIC 9(5) USAGE COMP-5.    *> メモリ上は 4 バイト
01 DIVISOR  PIC 9(3) USAGE COMP-5.
01 QUOTIENT PIC S9(18) LEADING SEPARATE.
01 REM      PIC S9(2)  LEADING SEPARATE.

```

```

PROCEDURE DIVISION.
BEGIN.
    MOVE 100 TO DIVISOR.
    MOVE 4294967295 TO DIVIDEND.

```



```

        DIVIDE DIVISOR INTO DIVIDEND GIVING QUOTIENT REMAINDER REM
        STOP RUN.
END PROGRAM SAMPLE.

```

COMP-5 データ項目の PICTURE 句の桁数を、格納する値の桁数に変更することで正しく得ることができます。（上記の例であれば、10 桁）

- (3) 次の条件をすべて満たす場合、APPLY SHIFT-CODE 句指定のファイルに対する WRITE 文を実行すると、セグメンテーション違反が発生する場合があります。（メモリ状態に依存するため、異なる現象が発生する可能性があります）

2 つの WRITE 文に対応するファイルが以下の条件を満たす場合

- ・ APPLY SHIFT-CODE 句指定のファイルである
- ・ 一方のファイルは WITH 指定なし、もう一方のファイルは WITH PPR-CONTROL-1 指定あり

WRITE 文に指定したレコード名または一意名に以下のどちらかの関係がある場合

- ・ 2 つの WRITE 文の FROM 句に同じ一意名を指定している
- ・ FROM 句指定なしの WRITE 文のレコード名がもう一方の WRITE 文の FROM 句に記述した一意名と同じである

プログラム例)

```

IDENTIFICATION          DIVISION.
PROGRAM-ID.             SAMPLE.
ENVIRONMENT             DIVISION.
INPUT-OUTPUT            SECTION.
FILE-CONTROL.
    SELECT PRF001 ASSIGN TO "PRF001-PRN".
    SELECT PRF002 ASSIGN TO "PRF002-PRN".
I-O-CONTROL.
    APPLY SHIFT-CODE ON PRF001 WITH PPR-CONTROL-1
    APPLY SHIFT-CODE ON PRF002.
DATA                    DIVISION.
FILE                    SECTION.
FD PRF001
    LABEL RECORD IS OMITTED.
01 PRF001-REC           PIC X(132).
FD PRF002

```

```

        LABEL RECORD IS OMITTED.
01 PRF002-REC          PIC X(132).
WORKING-STORAGE        SECTION.
01 REC-DATA.
    02 REC-DATA-1      PIC X(10).
    02 REC-DATA-2      OCCURS 3 TIMES.
    03 REC-DATA-3      PIC N(10) CHARACTER TYPE KMF-24P.
    03 REC-DATA-4      PIC N(10) CHARACTER TYPE KG-7P.
PROCEDURE              DIVISION.
BEGIN.
*
    OPEN  OUTPUT PRF001.
    WRITE PRF001-REC FROM REC-DATA.
    CLOSE PRF001.
*
    OPEN  OUTPUT PRF002.
    WRITE PRF002-REC FROM REC-DATA.
    CLOSE PRF002.
    STOP  RUN.

```

- (4) BASED 句指定のファイルに対して実行時エラーが発生したとき、実行時エラーメッセージ中のファイル名が正しく表示されません。

[エラーメッセージの例]

COB502 ファイル入出力でエラーが発生しました。(RE STATUS=30(30709) ?・`
, プログラム名 = FILE_005 , 行番号 = 000079)

- (5) -CU 指定時、システムサブルーチン B_CMOPT/B_GETENV/B_PUTENV/B_SYSTEM で内部コードの変換 (シフト JIS UTF-8、UTF-8 シフト JIS)を行わないため日本語を使用すると正しく動作しません。

B_CMOPT で、-CU 指定時に、起動したコマンド名や引数に日本語を使用した場合、コマンド名や引数を正しく取得できません。 取得したコマンド名や引数をプログラムで使用した場合、プログラムの動作は保障されません。

起動時のコマンド名や引数は、半角英数字を使用してください。

B_GETENV で、指定する環境変数名に日本語を使用した場合、環境変数を見つけれないか、誤った環境変数の値を取得する可能性があります。 取得する環境変数の値に日本語を使用した場合、値を正しく取得できません。 取得した環境

変数の値をプログラムで使用的した場合、プログラムの動作は保障されません。
指定する環境変数名、及び、取得する環境変数の値は、半角英数字を使用して
ください。

B_PUTENV で、指定する環境変数名に日本語を使用的した場合、環境変数を見つ
けられないか、誤った環境変数へ値を設定する可能性があります。指定された環
境変数へ設定する値に日本語を使用的した場合、値を正しく設定できません。
指定する環境変数名、及び、環境変数へ設定する値は、半角英数字を使用してし
てください。

B_SYSTEM で、シェルコマンドで指定するコマンド名に日本語を使用すると誤っ
たコマンドが起動される場合やコマンドの起動に失敗する可能性があります。
指定するパラメータに日本語を使用すると起動時に誤ったパラメータが渡され
る可能性があります。

シェルコマンドには、半角英数字を使用してください。

- (6) EXTERNAL 指定で順 / 行順ファイルと、相対ファイル、又は、APPLY 句なしの索引フ
ァイルを共用した場合、入出力状態 39 で詳細コードが 30709 (ファイル編成不一致)
ではなく、入出力状態 30 で詳細コードが 30706 (共用排他種別不一致) となります。

4.2.3. COBOL SQL アクセス

(1) INCLUDE 文について

INCLUDE 文に対する END-EXEC の末尾のピリオドを省略した場合、SQL 展開ソースが正
しい順番で展開されません。

INCLUDE 文に対する END-EXEC の末尾のピリオドは必ず指定するか、INCLUDE 文を使用
せず埋め込み SQL ソースに直接記述してください。

(2) EXECUTE IMMEDIATE 文について

EXECUTE IMMEDIATE 文の SQL 文変数に日本語文字列および可変長日本語文字列を指定
した場合、COBOL SQL アクセスプリコンパイラではエラーとならず、COBOL コンパ
イル時にコンパイルエラーとなります。

EXECUTE IMMEDIATE 文の SQL 文変数に日本語文字列および可変長日本語文字列を指定
しないでください。

(3) 利用者語 (利用者定義語) の文字数

COBOL SQL アクセスで扱える利用者語の文字数は、英数字の 1 文字から 30 文字 (日
本語の場合 15 文字) です。